

年 頭 所 感

一般社団法人全国高圧ガス容器検査協会
会 長 白 砂 清 一

新年明けましておめでとうございます。
平成30年の新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。
日頃は全検協の活動にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。



昨年は、国内外でグローバル化が抱える諸問題が顕在化し、私達を取り巻く環境もその大きな変動の中にいます。既成概念に捉われず、柔軟に取り組む年にしたいと思えます。

さて、ガス自由化による構造変化の中でLPガス容器再検査対象本数については、平成29年は約500万本であり、平成30年は約480万本と今後は毎年500万本程度に推移する見通しです。業界の課題であるバルク貯槽くず化処理基数は、今年から本格的に増え1万基を超える基数が発生すると考えています。LPガス用FRP容器は、7.5kgタイプ（プラコンポ）が今年初めての再検査（検査期間3年）を迎えます。20kgタイプ（GTK-20PⅡ）シリンダー容器は来年から初回検査が始まります。こうした新容器の再検査を容器検査所が安全で確実に出来るように再検査要領書を作成し、講習を通じて検査体制を構築してまいります。

当協会は保安活動として技術委員会が講習会を開催し、容器検査主任者や容器検査担当者また経営者の方にも幅広く受講していただいております。LPガス技術委員会が行っている容器検査講習会は2月、3月に大阪・福岡・東京の3会場で開催が決定しています。容器検査所におけるリスクアセスメントへの対応、バルク貯槽のくず化ではスチーム置換、LPガス用FRP容器の再検査手順など詳しく解説する予定です。一般高圧ガス技術委員会は、在宅医療用一般複合容器再検査基準の見直しを検討して新たに改訂版の冊子の作成に取り組んでいます。講習会の詳細は当協会ホームページをご覧ください。ホームページでは容器検査の情報や全検協の保険など詳しく発信しております。

これからも当協会は容器再検査の技術や知見を高め、関係団体と協力しながら保安の確保に推進してまいります。今年も皆様の益々のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。